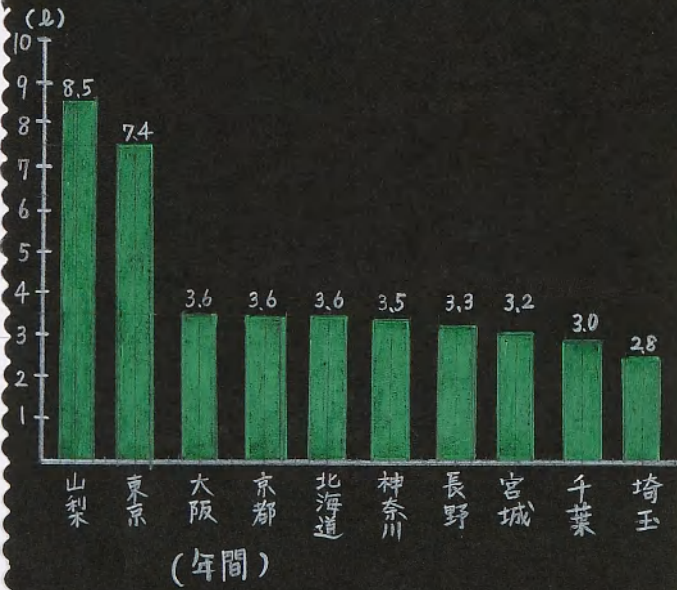


ワイン統計



都道府県別 成人1人当たりワイン消費量 (ℓ)



統計①

日本一の生産量を誇るワイン王国にふさわしい消費量。ワインが身近なものであることがよくわかる。この統計結果から、ぶどう生産量が多いところでワイン消費量が多いことがわかる。

ミニ知識

甲州市には「乾杯条例」がある。ワインにちなんで乾杯を推奨している。

都道府県別ワイン消費量 (%) 年間販売ベース

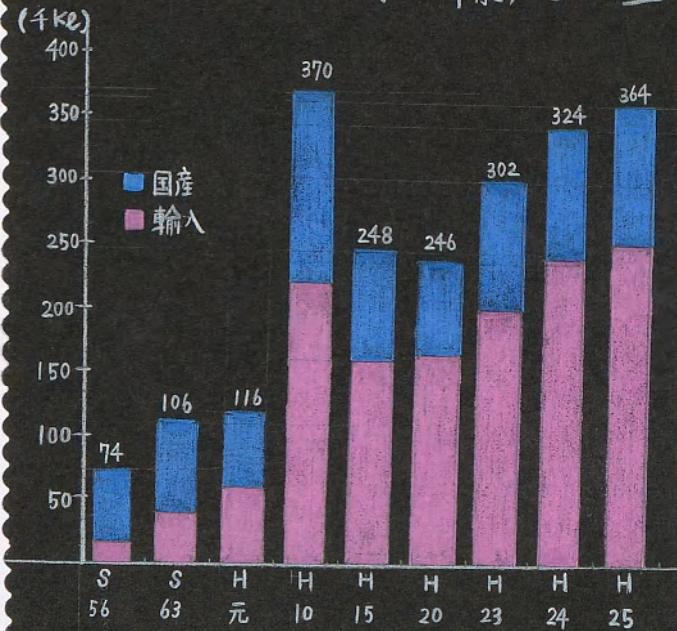


その他	18.5%
茨城	1.5%
新潟	1.5%
広島	1.6%
長野	1.7%
山梨	1.8%
宮城	1.8%
静岡	2.1%
京都	2.3%
福岡	3.5%
兵庫	3.6%
愛知	4.4%
千葉	4.6%
北海道	4.9%
埼玉	5.1%
神奈川県	7.9%
大阪	8.0%
東京	25.1%

統計②

中国・四国・九州で消費量が少なく、東日本で消費量が大きい。

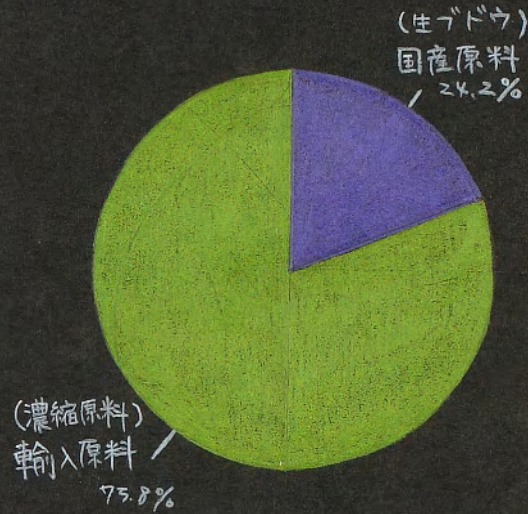
ワインの出荷・輸入数量 (課税ベース)



統計③

平成10年は赤ワインのポリフェノールによる健康ブームがおき、出荷量が増えた。近年は国産ワインの出荷量が伸びている。私の住む甲州市勝沼もオリジナルワインに力を入れている。

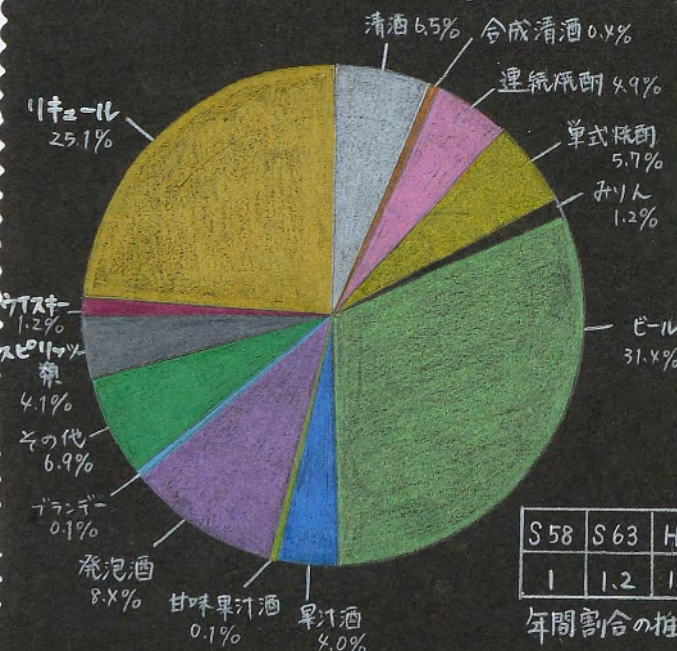
国産原料と輸入原料の割合 (%)



統計④

しかし、実態は輸入果汁を使って生産していることにはびっくり！生産農家の高齢化や輸入ワインとの価格競争が原因。

酒類の課税数量の推移 (%)



統計⑤

全体から見れば、ワインを飲む人はわずか4%の消費量しかないが、年々ワインを飲む割合が増えていることがわかる。

	S58	S63	H5	H10	H15	H20	H23	H24	H25
年間割合の推移	1	1.2	1.2	3.7	2.6	2.6	3.4	3.9	4.0

まとめ

私の住む甲州市はワインで有名な町で身近なところにワインがあるので興味をもち調べてみた。周りにもワイナリーやぶどう畑を多く見かけるため国産ワインは地元のぶどうを使っていると思っていたので、統計④の数字には驚いた。しかし、全体の消費量にはまだまだ伸びしろがあり、町やワイナリーや農家さんの新しいアイデアや取り組みでもっと増やしていくことができるのではないかと。ワインの町に暮らす市民として応援したい。

国税庁 平成25年度税務統計(酒税関係)

日経ビジネス 国産ワインは、実は4分の3が輸入果汁を使っていた (国税庁 2013年度調査)